

## 平成 30 年度生物多様性保全セミナーの開催概要

### 1 平成 30 年度生物多様性保全セミナーの開催

#### (1) 開催日時・場所

平成 31 年 3 月 14 日(木)14 時～15 時 45 分

#### (2) 内容

ア 神奈川県自然環境保全課の取組について

イ 参加事業所の生物多様性保全への取組と課題等に関する意見交換

ウ 生物多様性保全の取組方法について

講師：株式会社石勝エクステリア 小松 秀次氏

#### (3) 出席者

35 名(32 事業所・団体)

### 2 意見交換で集約した参加事業所の活動状況について

- 出席事業所 …… 32 事業所・団体 出席者 …… 35 名  
(協議会役員事業所から 18 事業所・21 名参加)
- 調査票回収数 …… 27 事業所・団体 30 名分

#### (1) 生物多様性保全活動の取組状況

- ① 取組を行っていないとする事業所は 6 社で、取組を行っていない理由は次のとおりでした。
  - 社内で議論がない(2 社)。
  - 必要性を感じていない。
  - 必要性は感じているが進め方が分からない。
  - その他
    - ・ 人手不足、事業との結びつきがないため難しい。
    - ・ 新たな取組内容が見つからない。
    - ・ 緑化に取り組むための場所がない。
    - ・ 現在準備を進めている最中である。
- ② 特定のテーマを設けて取り組んでいる例として、7 社から次の回答をいただきました。
  - 緑地の外来種防除、地域固有種の育成
  - ABNIC(一般社団法人いきもの共生事業推進協議会)の活動に参加、メダカ、ホタル、野鳥、ジャコウアゲハの保護
  - エビネランの保護、キンランの移植
  - 全従業員に生物多様性保全に関する環境教育の実施
  - 休廃止鉱山跡地の植林・整備
- ③ ビオトープの設置、小鳥の巣箱の設置、工場緑化など、様々な生物多様性保全活動に取り組んでいる事業所は 9 社(上記②の事業所を含む)で、その内容は次のとおりでした。
  - 巣箱の設置(回答 4)、野鳥の森整備、ツバメの巣場所の保全、ビオトープ・落ち葉のプール設置、苗木の育成、温室で育成、ニホンミツ

#### バチの保護

- 工場緑化、緑地の整備、緑化復元、緑地の整備、桜・ブナ・びわ・柿などで緑化の維持、植林
  - 環境月間にパネル展示、講演会の開催、省エネによる保全活動
  - 富士山緑化活動、清掃活動、環境月間にパネル展示、講演会の開催
- ④ 工場緑化への取組状況、考え方についてお聞きした結果は、次のとおりでした。
- 義務的な範囲での取組・・・9 社
  - 積極的な取組・・・5 社
  - 現状維持・・・1 社
- ⑤ その他、近隣河川敷の清掃への参加により生物多様性保全に貢献していると答えた事業所は18社ありました。
- 近隣河川清掃、行政行事への参加・・・17社
  - グループ企業の活動に参加
  - 外来種の除去活動
- ⑥ 製品の開発や製造段階から生物多様性に配慮して、原材料の選定や容器の選定などを行っている」と答えた事業所は8社ありました。

### (2) 生物多様性保全活動推進を位置付けている「計画等」についてお聞きしたところ、次のようなお答えがありました。

- 「緑化復元」・・・「緑の創造(計画)」に位置付け
- 「地域と協働」・・・毎年度策定する「環境計画」に位置付け
- 「事業活動」全体に「生物多様性基本方針」に位置付け
- 「生物多様性保全・自然循環型の活動」を環境方針に位置付け
- 「緑地の際整備・活用」を環境マネジメントプログラムで推進
- 「歩留り向上、省エネ」を単年度計画に位置付け

### (3) 取組を進めている事業所の皆さんの課題認識は、次のとおりでした。

#### 【社内合意・推進体制等に関する課題】

- 活動に理解が得られにくく、予算確保が難しい。
- 交代勤務職場なので活動が浸透し難い。
- 社内調整が必要になる。

#### 【進め方・技術的事項に関する課題】

- 進め方が判らない。
- 従業員が参加しやすい活動が思いつかない。
- 担当者不在により取組を休止している。
- 専門家（リーダー）がいないため進められない。
- 外来種の駆除方法が分からない。

#### 【従業員の意識啓発・向上に関する課題】

- 意識が低い、意識向上につながらない。人が集まらない、活動が浸透しない。
- ボランティアでの対応はマンネリ化している。オフィスで植物を育てる活動への参加が得られにくい。